

SiteMinder

SDK リリース ノート

12.52 SP1



このドキュメント（組み込みヘルプシステムおよび電子的に配布される資料を含む、以下「本ドキュメント」）は、お客様への情報提供のみを目的としたもので、日本 CA 株式会社（以下「CA」）により随時、変更または撤回されることがあります。本ドキュメントは、CA が知的財産権を有する機密情報であり、CA の事前の書面による承諾を受けずに本書の全部または一部を複写、譲渡、変更、開示、修正、複製することはできません。

本ドキュメントで言及されている CA ソフトウェア製品のライセンスを受けたユーザは、社内でユーザおよび従業員が使用する場合に限り、当該ソフトウェアに関連する本ドキュメントのコピーを妥当な部数だけ作成できます。ただし、CA のすべての著作権表示およびその説明を当該複製に添付することを条件とします。

本ドキュメントを印刷するまたはコピーを作成する上記の権利は、当該ソフトウェアのライセンスが完全に有効となっている期間内に限定されます。いかなる理由であれ、上記のライセンスが終了した場合には、お客様は本ドキュメントの全部または一部と、それらを複製したコピーのすべてを破棄したことを、CA に文書で証明する責任を負いません。

準拠法により認められる限り、CA は本ドキュメントを現状有姿のまま提供し、商品性、特定の使用目的に対する適合性、他者の権利に対して侵害のないことについて、黙示の保証も含めいかなる保証もしません。また、本ドキュメントの使用に起因して、逸失利益、投資損失、業務の中断、営業権の喪失、情報の喪失等、いかなる損害（直接損害か間接損害かを問いません）が発生しても、CA はお客様または第三者に対し責任を負いません。CA がかかる損害の発生の可能性について事前に明示に通告されていた場合も同様とします。

本ドキュメントで参照されているすべてのソフトウェア製品の使用には、該当するライセンス契約が適用され、当該ライセンス契約はこの通知の条件によっていかなる変更も行われません。

本書の制作者は CA および CA Inc. です。

「制限された権利」のもとでの提供：アメリカ合衆国政府が使用、複製、開示する場合は、FAR Sections 12.212、52.227-14 及び 52.227-19(c)(1)及び(2)、ならびに DFARS Section 252.227-7014(b)(3) または、これらの後継の条項に規定される該当する制限に従うものとします。

Copyright © 2014 CA. All rights reserved. 本書に記載されたすべての商標、商号、サービス・マークおよびロゴは、それぞれの各社に帰属します。

CA Technologies 製品リファレンス

このマニュアルが参照している CA Technologies の製品は以下のとおりです。

- SiteMinder
- CA DataMinder™ (旧 CA DLP)

CA への連絡先

テクニカル サポートの詳細については、弊社テクニカル サポートの Web サイト (<http://www.ca.com/jp/support/>) をご覧ください。

目次

第 1 章: SDK リリース ノート	7
第 2 章: オペレーティング システムのサポート	9
第 3 章: システム要件	11
第 4 章: インストールに関する考慮事項	11
システム ロケールは、インストールおよび設定ディレクトリの言語と一致する必要がある	11
ローカライズ版のインストールに関する考慮事項	11
Windows での SDK のインストール	12
Windows Server 2008 システムの考慮事項	12
UNIX の GUI モードでの SDK のインストール	14
UNIX のコンソール モードでの SDK のインストール	15
Windows での SDK の無人インストール	16
UNIX での SDK の無人インストール	17
SDK のアンインストール	18
第 5 章: 一般的な考慮事項	19
ポリシー管理 API	19
カスタム エージェントでの SSO サポート	19
カスタム エージェントおよび SiteMinder 12.52 SP1	20
LDAP SDK との統合	20
第 6 章: SDK 12.52 SP1 の新機能	21
Perl CLI への SetPath メソッドの追加	21
CAPKI のアップグレード	21
第 7 章: 12.52 SP1 で修正された SDK の問題	23
Java エージェント SDK が接続エラーを返します (55842)	23
Pure Java SDK によってコンパイル エラーが発生します (62843)	23

第 8 章: 12.52 で修正された SDK の問題	25
SSO ゾーンをサポートするためのエージェント SDK の更新 (168974)	25
SmSessionServer クラスの createSession() メソッドの失敗 (171759)	26
SDK を使用して、オブジェクトの記述を変更できない (170888)	26
第 9 章: 12.51 で修正された SDK の問題	27
64 ビット Java SDK の smreghost.sh ファイル内の不正な値 (165718)	27
アプリケーションサーバエージェントがポリシーサーバへの再接続に失敗する (167819)	28
ポリシー管理 API のパフォーマンスの問題 (169497)	28
4.x エージェントで C サンプルプログラムを実行するために必要な環境変数の設定 [156186]	28
SSO トークンのデコードによるパフォーマンス低下 (159533)	29
SAML サービスプロバイダオブジェクトの有効期間をカスタマイズする際に発生するエラー (153929)	29
bin64 ディレクトリから実行した場合の smtest ツールエラー (CQ162346)	30
IdentityMinder および SiteMinder ポリシーサーバの接続問題 (CQ158253)	30
第 10 章: ドキュメント	31
SiteMinder マニュアル選択メニュー	31
既知の問題.....	32
マニュアルのリリース番号	32

第 1 章: SDK リリース ノート

このドキュメントには、オペレーティング システムのサポート、インストールに関する考慮事項、既知の問題、修正項目、CA テクニカル サポートへの問い合わせに関する情報が含まれています。

第 2 章: オペレーティング システムのサポート

SDK のオペレーティング システム サポートについて理解するには、テクニカルサポート [サイト](#) 上の SiteMinder r12 用の SiteMinder プラットフォーム サポート マトリックスを参照してください。このマトリックスには、SiteMinder 12.52 SP1 用のサポートされているプラットフォームが示されています。

SDK プラットフォーム サポート マトリックスは、SiteMinder プラットフォーム サポート マトリックスに通常含まれています。

注: 前のリリースのプラットフォームの一部は、現在はサポートされていない可能性があります。

第 3 章: システム要件

必要な JRE バージョンがインストールされていることを確認します。必要なバージョンについては、[テクニカルサポートサイト](#)で SiteMinder r12 のプラットフォーム サポート マトリックスを参照してください。

SiteMinder SDK 12.52 SP1 で開発されたアプリケーションは、v6.0 より前のバージョンのポリシー サーバに対して実行できません。SDK の前のバージョンで開発されたアプリケーション、および SiteMinder ポリシー サーバ v5.0、v5.5、6.x で動作するアプリケーションは、ポリシー サーバ 12.52 SP1 で引き続き動作します。

第 4 章: インストールに関する考慮事項

システム ロケールは、インストールおよび設定ディレクトリの言語と一致する必要がある

英語以外のディレクトリに SiteMinder コンポーネントをインストールおよび設定するには、システムをディレクトリと同じロケールに設定します。また、必要な言語パッケージをインストールして、ローカライズされた文字をシステムで表示でき、ユーザがインストーラ画面で入力できることを確認します。

ロケールおよび必要な言語パッケージの設定方法の詳細については、各オペレーティングシステムのドキュメントを参照します。

ローカライズ版のインストールに関する考慮事項

SiteMinder SDK を英語以外のオペレーティングシステムが稼働しているシステムにインストールする場合は、`smpolicyapi` が UTF-8 ベースの API であることを忘れないでください。ライブラリは、入力を UTF-8 でエンコードされた文字列と予想します。ライブラリは、出力パラメータとして UTF-8 でエンコードされた文字列を返します。

Windows での SDK のインストール

SiteMinder SDK をインストールするのに特別に必要となるアカウントまたは権限はありません。SDK の最初のバージョンをインストールする場合と、既存のバージョンからアップグレードする場合の手順は同じです。

SiteMinder SDK はポリシー サーバまたは Web エージェントのあるインストールパスにインストールしないでください。SDK は同じサポート ライブラリの別のバージョンがある場合があります。

SDK をインストールする方法

1. すべてのプログラムを終了します。
2. [CA テクニカル サポート サイト](#)から SDK をダウンロードします。
3. win32 ディレクトリに移動し、以下のプログラムを実行します。

```
ca-sdk-12.52sp1-win32.exe
```

ウィザードに従います。

Windows Server 2008 システムの考慮事項

Windows Server 2008 では、ユーザアカウント制御機能によって、許可されていない変更がシステムに加えられるのを防ぎます。ユーザアカウント制御機能が Windows Server 2008 オペレーティング環境で有効な場合、SiteMinder コンポーネントで以下のタスクのいずれかを実行するには、事前にいくつかの手順を実行しておく必要があります。

- インストール
- 設定
- 管理
- アップグレード

注: Windows Server 2008 をサポートする SiteMinder コンポーネントの詳細については、SiteMinder プラットフォーム サポート マトリックスを参照してください。

Windows Server 2008 システム上で SiteMinder インストールまたは設定ウィザードを実行する方法

1. 実行ファイルを右クリックし、[管理者として実行] を選択します。
[ユーザー アカウント制御] ダイアログ ボックスが表示され、許可を求められます。
2. [許可] をクリックします。
ウィザードが開始します。

Windows Server 2008 システム上で SiteMinder ポリシー サーバ管理コンソールにアクセスする方法

1. ショートカットを右クリックし、[管理者として実行] を選択します。
[ユーザー アカウント制御] ダイアログ ボックスが表示され、許可を求められます。
2. [許可] をクリックします。
ポリシー サーバ管理コンソールが開きます。

Windows Server 2008 システム上で SiteMinder コマンドライン ツールまたはユーティリティを実行する方法

1. [コントロールパネル] を開きます。
2. [タスク バーと [スタート] メニューのプロパティ] で、クラシック [スタート] メニューではなく、[スタート] メニューが設定されていることを確認します。
3. [スタート] をクリックし、検索の開始フィールドに以下を入力します。

Cmd
4. **Ctrl + Shift + Enter** キーを押します。
[ユーザー アカウント制御] ダイアログ ボックスが表示され、許可を求められます。
5. [続行] をクリックします。
より高い権限でコマンド ウィンドウが表示されます。タイトル バーのテキストは「Administrator」で開始されています。
6. SiteMinder コマンドを実行します。

詳細情報:

[CA への連絡先](#) (P. 3)

UNIX の GUI モードでの SDK のインストール

SiteMinder SDK をインストールするのに特別に必要となるアカウントまたは権限はありません。SDK の最初のバージョンをインストールする場合と、既存のバージョンからアップグレードする場合の手順は同じです。

SiteMinder SDK はポリシー サーバまたは Web エージェントと同じパスにインストールしないでください。SDK は同じサポート ライブラリの別のバージョンがある場合があります。

注: SiteMinder SDK を Linux システムにインストールする場合、オペレーティング環境に適切な 32 ビット C ランタイム ライブラリ (libstdc++.so.6) があることを確認してください。このライブラリを取得するには、以下の rpm をインストールします。

- `compat-gcc-34-c++-3.4.6-patch_version.i386.rpm`

UNIX の場合、インストール実行ファイルは `ca-sdk-12.52sp1-platform.bin` です。

SDK は GUI モードまたはコンソール モードでインストールできます。

UNIX GUI モードで SDK をインストールする方法

1. すべてのプログラムを終了します。
2. [CA テクニカル サポート サイト](#) から SDK をダウンロードします。
3. UNIX シェルの場合、お使いのプラットフォームに対応するディレクトリに移動します (Solaris、aix、linux、または hpux)。

4. 以下のコマンドを入力します。

```
sh ./ca-sdk-12.52sp1-OS.bin
```

OS

OS を、sol、aix、linux、suse、または hp で置き換えます。

たとえば、Solaris プラットフォームの場合、コマンドは以下のようになります。

```
sh ./ca-sdk-12.52sp1-sol.bin
```

5. ウィザードに従います。

UNIX のコンソール モードでの SDK のインストール

SiteMinder SDK をインストールするのに特別に必要となるアカウントまたは権限はありません。SDK の最初のバージョンをインストールする場合と、既存のバージョンからアップグレードする場合の手順は同じです。

SDK はポリシー サーバまたは Web エージェントのあるインストールパスにインストールしないでください。SDK は同じサポートライブラリの別のバージョンがある場合があります。

注: SiteMinder SDK を Linux システムにインストールする場合、オペレーティング環境に適切な 32 ビット C ランタイム ライブラリ (libstdc++-so.6) があることを確認してください。このライブラリを取得するには、以下の rpm をインストールします。

- compat-gcc-34-c++-3.4.6-patch_version.i386.rpm

UNIX の場合、インストール実行ファイルは `ca-sdk-12.52sp1-platform.bin` です。

SDK は GUI モードまたはコンソールモードでインストールできます。

UNIX コンソールモードで SDK をインストールする方法

1. すべてのプログラムを終了します。
2. [CA テクニカル サポート サイト](#)から SiteMinder SDK をダウンロードします。

3. UNIX シェルの場合、お使いのプラットフォームに対応するディレクトリに移動します（Solaris、aix、linux、または hpux）。
4. 以下のコマンドを入力します。

```
sh ./ca-sdk-12.52sp1-platform.bin -i console  
platform
```

platform を、sol、aix、linux、suse、または hp で置き換えます。

たとえば、Solaris プラットフォームの場合、コマンドは以下のようになります。

```
sh ./ca-sdk-12.52sp1-sol.bin -i console
```

ウィザードに従います。

Windows での SDK の無人インストール

SiteMinder SDK を手動でインストールした後は、同じシステム、または別のシステムにサイレントインストールモードを使用してインストールすることができます。無人インストールは、インストール基本設定のプロパティ ファイルを参照するコマンドを使用して行います。デフォルトのプロパティ ファイルのテンプレート（`install_config_info` フォルダ内の `sdk-installer.properties`）は要件に応じて変更可能です。

Windows にサイレントモードで SDK をインストールする方法

1. SDK の実行可能ファイルが存在するディレクトリへ移動します。
2. コマンドプロンプトから、以下のコマンドを入力します。

```
ca-sdk-12.52sp1-win32.exe -f sdk-installer.properties -i silent  
-f
```

SDK のインストーラ プロパティ ファイルの名前を指定します。プロパティ ファイルがインストールの実行可能ファイルと同じディレクトリにない場合は、プロパティ ファイルへの相対パスを指定します。

```
-i
```

インストールモードを指定します。

インストールが完了します。

UNIX での SDK の無人インストール

SiteMinder SDK を手動でインストールした後は、同じシステム、または別のシステムにサイレントインストールモードを使用してインストールすることができます。無人インストールは、インストール基本設定のプロパティ ファイルを参照するコマンドを使用して行います。デフォルトのプロパティ ファイルのテンプレート (`install_config_info` フォルダ内の `sdk-installer.properties`) は要件に応じて変更可能です。

UNIX にサイレントモードで SDK をインストールする方法

1. SDK の実行可能ファイルが存在するディレクトリへ移動します。
2. コマンドプロンプトから、以下のコマンドを入力します。

```
sh ./ca-sdk-12.52sp1-platform.bin -f sdk-installer.properties -i silent  
-f
```

SDK のインストーラ プロパティ ファイルの名前を指定します。プロパティ ファイルがインストールの実行可能ファイルと同じディレクトリにない場合は、プロパティ ファイルへの相対パスを指定します。

```
-i
```

インストールモードを指定します。

インストールが完了します。

SDK のアンインストール

UNIX コンソールから SiteMinder SDK をアンインストールする方法

1. コンソール ウィンドウで、SDK インストール内の `install_config_info/ca-sdk-uninstall` ディレクトリに移動します。

```
/export/ca/sdk/install_config_info/ca-sdk-uninstall
```

2. 以下のコマンドを実行します。

```
./uninstall -i console
```

3. 要求されたら Enter キーを押してアンインストールを開始します。

注: UNIX 上の SDK をアンインストールする場合、JRE が PATH 変数内にあることを確認します。JRE が PATH 変数内がない場合、以下のような内容のエラーが発生します。

PATH 環境変数に Java 仮想マシンが見つかりませんでした。このプログラムを実行する前に VM をインストールする必要があります。

PATH に JRE を設定するには、以下の 2 つのコマンドを実行します。

1. `PATH=$PATH:JRE_location/bin`

例 : `PATH=$PATH:/usr/bin/jdk141/jre/bin`

2. `export PATH`

Windows から SiteMinder SDK をアンインストールする方法

1. [コントロールパネル] で [プログラムの追加と削除] をダブルクリックします。
2. SiteMinder SDK 12.52 SP1 を選択して [変更と削除] をクリックします。

画面のプロンプトに従い、完了したら [閉じる] をクリックします。

第 5 章：一般的な考慮事項

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[ポリシー管理 API \(P. 19\)](#)

[カスタム エージェントでの SSO サポート \(P. 19\)](#)

[カスタム エージェントおよび SiteMinder 12.52 SP1 \(P. 20\)](#)

[LDAP SDK との統合 \(P. 20\)](#)

ポリシー管理 API

SiteMinder v4.5 以降、ポリシー管理 API に大幅な変更が加えられています。たとえば、オブジェクトの一意の識別子としての OID の導入、`Sm_PolicyApi_Init()` や `Sm_PolicyApi_Release()` などの関数の追加があります。

SiteMinder v4.5 より前のリリースからポリシー管理 API を継続して使用している開発者は、以前のリリースに付属のドキュメントを参照してください。さらに以下の点に注意してください。

- SiteMinder SDK v6.0 SP 2 以降のバージョンは、SiteMinder v5.0 より前のリリースのポリシー管理 API をサポートしません。
- ポリシー サーバ v5.x は、SiteMinder v4.5 より前のリリースのポリシー管理 API で構築されたアプリケーションをサポートしません。

カスタム エージェントでの SSO サポート

シングルサインオン サポートを有効化した場合、カスタム エージェントは前のリリースの標準的な SiteMinder Web エージェントで作成された SMSESSION シングルサインオン Cookie を受取できます。

カスタム エージェントによって作成された SMSESSION Cookie を受取するには、Web エージェントを少なくとも以下のようにアップグレードする必要があります。

QMR	サポートされている SiteMinder エージェント
4.x QMR4	SiteMinder v4.x エージェント

SiteMinder v4.x、v5.x、または v6.x エージェントを適切な QMR アップグレードで有効にし、カスタム エージェントによって作成された SMSESSION Cookie を受け入れるようにするには、Web エージェント設定ファイル (IIS サーバの場合は LocalConfig.conf、その他のサーバの場合は WebAgent.conf) または中央設定オブジェクト (v5.x 以降) に以下のエントリが含まれる必要があります。

```
AcceptTPCookie="yes"
```

AcceptTPCookie を以下のとおりに設定します。

- 4.x QMR4 エージェント以降では、標準エージェントのエージェント設定ファイルに AcceptTPCookie="yes" を直接追加します。
- 5.x QMR1 エージェント以降では、標準エージェントのエージェント設定オブジェクトに対する AllowLocalConfig パラメータが no に設定されている場合は、そのオブジェクトにエントリを追加します。AllowLocalConfig が yes に設定されている場合は、Web エージェント設定ファイルに AcceptTPCookie を設定できます。

カスタム エージェントおよび SiteMinder 12.52 SP1

SDK 12.52 SP1 でカスタム エージェントを構築する場合、v6.0 から r6.0 SP 5 および r12 ポリシー サーバのみに対してカスタム エージェントを実行できます。

SDK 5.5 の SiteMinder エージェント API で構築されたエージェントは、SiteMinder ポリシー サーバ v5.x および v6.0 から r6.0 SP 5 までと一緒に使用できます。

LDAP SDK との統合

SiteMinder r12.5 以降では、ポリシー サーバは、C SDK、バージョン 6.0.7 (HP-UX 用のバージョン 6.0.4) 用の Mozilla LDAP SDK と統合されます。ユーザのカスタム コードが LDAP SDK の古いバージョンとリンクされていた場合は、新しい SDK でリンクします。古いバージョンは「iPlanet Directory SDK」、または「Netscape LDAP SDK」と呼ばれていました。

第 6 章: SDK 12.52 SP1 の新機能

Perl CLI への SetPath メソッドの追加

Perl CLI には、ユーザ パスを設定する新しい SetPath メソッドが含まれています。このメソッドは、C 言語 API の Sm_PolicyApi_SetPath() と同等の機能を提供するために作成されました。

CAPKI のアップグレード

SiteMinder がアップグレードされ、CAPKI 4.3.4 を使用して、以下の OpenSSL 脆弱性を修正するようになりました。

- CVE-2014-0224: An SSL/TLS MITM の脆弱性は、OpenSSL 0.9.8y 以前に存在します。攻撃者は、注意深く作られたハンドシェイクを使用して、OpenSSL SSL/TLS クライアントおよびサーバ内の脆弱なキー材料の使用を強制できます。これは、攻撃を受けたクライアントおよびサーバからのトラフィックを攻撃者が復号化し変更することで、MITM (Man-in-the-Middle、中間者) 攻撃に悪用される場合があります。
- CVE-2014-0221 : DTLS 再帰エラーは OpenSSL 0.9.8y 以前に存在します。OpenSSL DTLS クライアントに無効な DTLS ハンドシェイクを送信してコードを再帰させることにより、DoS 攻撃のクラッシュを引き起こす場合があります。
- CVE-2014-3470 : 匿名 ECDH サービス拒否エラーは OpenSSL 0.9.8y 以前に存在します。匿名 ECDH ciphersuites を可能にする OpenSSL TLS クライアントは、サービス拒否攻撃の対象となります。
- CVE-2014-0076 : 攻撃に対する修正プログラムについては「Recovering OpenSSL ECDSA Nonces Using the FLUSH+RELOAD Cache Side-channel Attack」を参照してください。

脆弱性の詳細については、OpenSSL ドキュメントを参照してください。

第 7 章: 12.52 SP1 で修正された SDK の問題

Java エージェント SDK が接続エラーを返します (55842)

症状:

Java SDK は、EOF がサーバから受信される場合、接続の再試行に失敗します。

解決方法:

この問題は修正されました。

STAR イシュー : 21742696-01

Pure Java SDK によってコンパイル エラーが発生します (62843)

症状:

Pure Java SDK は ATTR_SSOZONE 宣言をしておらず、コンパイル エラーを引き起こします。

解決方法:

この問題は修正されました。

STAR イシュー : 21758116-01

第 8 章: 12.52 で修正された SDK の問題

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[SSO ゾーンをサポートするためのエージェント SDK の更新 \(168974\)](#) (P. 25)

[SmSessionServer クラスの createSession\(\) メソッドの失敗 \(171759\)](#) (P. 26)
[SDK を使用して、オブジェクトの記述を変更できない \(170888\)](#) (P. 26)

SSO ゾーンをサポートするためのエージェント SDK の更新 (168974)

症状:

Web エージェントは、SSO ゾーン名のないセッション Cookie を受け取りました。この省略により、どのような設定かにかかわらず、古いエージェントからのセッション Cookie に全ゾーンへのフルアクセス権が付与されます。これは SSO ゾーン実装のセキュリティの不具合でした。

解決方法:

CreateSSOToken インターフェースで SM_AGENTAPI_ATTR_SSOZONE 属性をセッショントークンに挿入できるようになりました。DecodeSSOToken は、提供されたトークンから SSOZONE 属性を読み取り、属性リストにその値を格納します。

JAVA Agent API SDK では、新しい属性タイプ ATTR_SSOZONE が AttributeList クラスに含まれます。

トークンに SSOZONE 属性がない場合、デフォルト値は "SM" です。

STAR イシュー : 21313153;1

SmSessionServer クラスの createSession() メソッドの失敗 (171759)

症状:

SmSessionServer クラス (com.netegrity.policyserver.smap) の createSession() メソッドは 12.0.5.02 ビルドでセッションの作成に失敗しましたが、12.5.0.0 (GA) で機能したことが報告され、6.0.6.10 で機能することが確認されました。

解決方法:

この問題は間違ったマージの結果であり、修正されています。

STAR イシュー : 21440836-1

SDK を使用して、オブジェクトの記述を変更できない (170888)

症状:

ユーザは SDK API を使用して、ACO の記述を変更できませんでした。

解決方法:

この問題は修正されました。

第 9 章: 12.51 で修正された SDK の問題

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[64 ビット Java SDK の smreghost.sh ファイル内の不正な値 \(165718\) \(P. 27\)](#)
[アプリケーションサーバエージェントがポリシーサーバへの再接続に失敗する \(167819\) \(P. 28\)](#)

[ポリシー管理 API のパフォーマンスの問題 \(169497\) \(P. 28\)](#)

[4.x エージェントで C サンプルプログラムを実行するために必要な環境変数の設定 \[156186\] \(P. 28\)](#)

[SSO トークンのデコードによるパフォーマンス低下 \(159533\) \(P. 29\)](#)

[SAML サービスプロバイダオブジェクトの有効期間をカスタマイズする際に発生するエラー \(153929\) \(P. 29\)](#)

[bin64 ディレクトリから実行した場合の smtest ツールエラー \(CQ162346\) \(P. 30\)](#)

[IdentityMinder および SiteMinder ポリシーサーバの接続問題 \(CQ158253\) \(P. 30\)](#)

64 ビット Java SDK の smreghost.sh ファイル内の不正な値 (165718)

症状:

64 ビット Java SDK に含まれている smreghost.sh ファイルには、以下の変数に対する不正な値がありました。

- JAVA_HOME
- SMREGHOST_CLASSPATH

解決方法:

この問題は修正されました。

STAR イシュー番号: 21181913:01

アプリケーション サーバエージェントがポリシー サーバへの再接続に失敗する(167819)

症状:

ネットワークの障害後、アプリケーション エージェントがポリシー サーバへの再接続に失敗します。

解決方法:

この問題は修正されました。

STAR イシュー番号 : 20619959-1

ポリシー管理 API のパフォーマンスの問題(169497)

症状:

ポリシー管理 API を使用して多数のポリシー オブジェクトを操作する場合、カスタム アプリケーションのパフォーマンスが低下します。

解決方法:

この問題は修正されました。

STAR イシュー番号 : 21359599-1

4.x エージェントで C サンプル プログラムを実行するために必要な環境変数の設定 [156186]

4x エージェント接続が動作するための SmAgentAPI 'C' サンプルの実行には、FIPS 専用モードに対する環境変数の設定が必要です。この環境変数が以下のように設定されていることを確認します。

```
export CA_SM_PS_FIPS140=ONLY
```

この環境変数を設定した後に、SmAgentAPI 'C' サンプルは動作します。

この設定は、5.x エージェントには必要ありません。

SSOトークンのデコードによるパフォーマンス低下(159533)

症状:

予期された動作:

decodeSSOToken メソッドは、30 秒ごとに doManagement メソッドを呼び出します。

実際の動作:

SDK エージェントが decodeSSOToken メソッドを呼び出すたびに、decodeSSOToken メソッドが doManagement メソッドを呼び出します。

解決方法:

この問題は修正されました。予期された動作が発生します。

STAR イシュー番号: 21052982-3

SAML サービス プロバイダ オブジェクトの有効期間をカスタマイズする際に発生するエラー(153929)

以下のアイテムを完了するために C API SDK アプリケーションを使用することは、エラーをもたらす結果になります。

- SAML サービス プロバイダ オブジェクトの有効期間をカスタマイズする。
- TARGET URL を検証する SAML 2.0 認証方式を設定する。

エラーは以下のとおりです。

-157(Sm_PolicyApi_SAML_UnknownProperty)

bin64 ディレクトリから実行した場合の smtest ツール エラー (CQ162346)

Windows 2008 で該当

症状:

テスト ツールをインストールして、bin64 ディレクトリから実行しようとすると、以下のエラー メッセージが表示されます。

```
libetpki2.dll not found
```

解決方法:

この問題は修正されました。

STAR イシュー番号 : 20994844:01

IdentityMinder および SiteMinder ポリシー サーバの接続問題 (CQ158253)

RedHat に該当

症状:

以下のエラー メッセージを受信しました。

```
WARN [org.jboss.resource.connectionmanager.JBossManagedConnectionPool] (main)
Throwable while attempting to get a new connection: null
javax.resource.spi.EISSystemException: Cannot connect to policy server: Failed to
init Agent API: -
```

解決方法:

この問題は修正されました。

STAR イシュー番号 : 20950919:01

第 10 章: ドキュメント

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[SiteMinder マニュアル選択メニュー](#) (P. 31)

[既知の問題](#) (P. 32)

[マニュアルのリリース番号](#) (P. 32)

SiteMinder マニュアル選択メニュー

SiteMinder に関する詳細情報は [SiteMinder マニュアル選択メニュー](#) から参照できます。[SiteMinder マニュアル選択メニュー](#) を使用すると、以下のことを実行できます。

- 1つのコンソールを使用して [SiteMinder](#) について公開されているすべてのドキュメントを表示する。
- アルファベット順の索引を使用して、すべてのドキュメントのトピックを検索する。
- すべてのドキュメントで1つ以上の単語を検索する。

[CA テクニカルサポート サイト](#) から [SiteMinder マニュアル選択メニュー](#) を表示してダウンロードします。マニュアル選択メニューにアクセスするためにサイトにログインする必要はありません。

ドキュメントをダウンロードする予定である場合は、インストールを開始する前にダウンロードすることをお勧めします。

既知の問題

以下の SiteMinder コンポーネントの既知の問題は機密情報であり、「リリースノート」に含まれなくなりました。

- ポリシー サーバ
- Web エージェント
- SDK
- フェデレーション
- Web サービス セキュリティ
- CA SiteMinder® SPS

既知の問題を表示するには、以下の手順に従います。

1. マニュアル選択メニューのメイン ページで [リリースノート] をクリックします。
2. [既知の問題] の [制限されたコンテンツ] をクリックし、CA Support Online にログインします。

マニュアルのリリース番号

マニュアルの表紙に記載されているリリース番号は、必ずしも現在の製品リリース番号に対応するとは限りません。しかし、製品と併せて提供されるすべてのドキュメントは、表紙に記載されているリリース番号に関係なく、その製品リリースをサポートします。

リリース番号は、新規または更新された製品のリリースをサポートするためにマニュアルが大幅に変更される場合のみ変更されます。マニュアルに実質的な変更が加えられていない場合、リリース番号は変わりません。たとえば、r12 用のマニュアルは、r12 SP1 でも有効です。マニュアルのブックシェルフは常に現在の製品リリース番号を反映しています。

場合によっては、新規または更新のリリース以外でマニュアルが更新されることもあります。サポートするすべてのリリースでマニュアルの記述が無効にならないよう、わずかな変更が施されたことを示すために、カバー ページの版番号が更新されます。最初のエディションには、エディション番号はありません。